

自己開示と自己主張ができる児童の育成

教育実践高度化専攻 児童発達支援コース 生徒指導・教育相談系

氏名 小島 丈史

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代と言われている。このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが所属する集団において、自分のよさや可能性を発揮しながら、自分らしく生活するために、自己開示したり、自己主張をしたりすることが極めて重要である。

本研究では、自己開示と自己主張ができる児童を育成するため、小学6年生31名を対象に、2023年4月から11月に実践、調査研究を行った。実践では、お話タイムとシャベリカを手立てとして行った。実践に対して、児童のアンケート調査やその記述、学級会の様子、学級会の振り返り用紙を基に調査検証をした。その結果、手立てにより、児童は自己開示ができるようになり、その後、自己主張ができるようになってくることが明らかになった。つまり、自己開示が基盤となり、自己主張ができるようになるということが分かった。